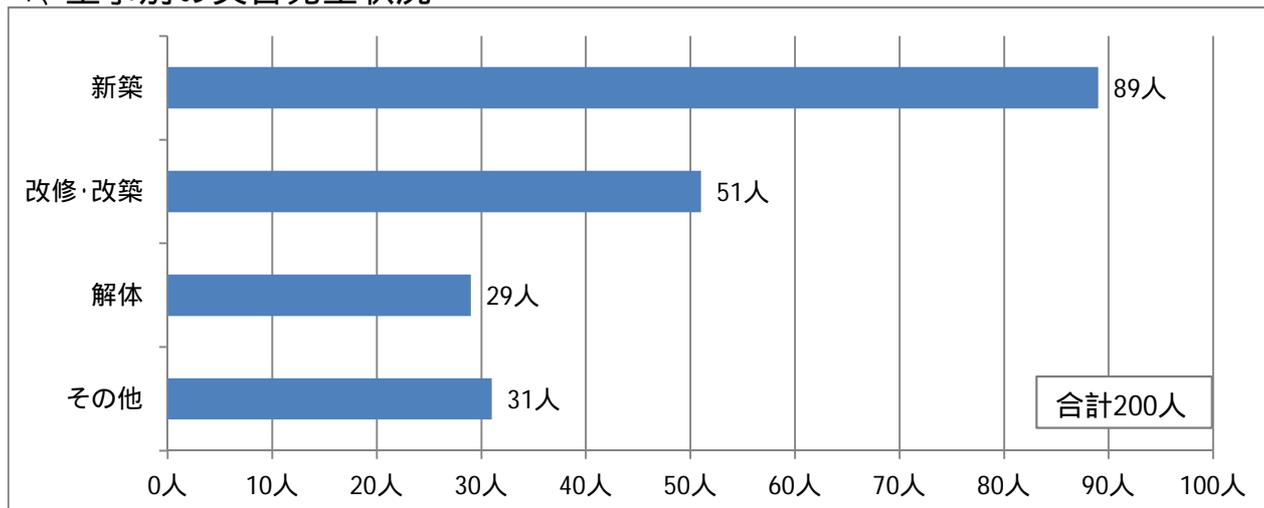


木造家屋建築工事の労働災害発生状況(24年1～12月)

H25.3.31確定

1、工事別の災害発生状況

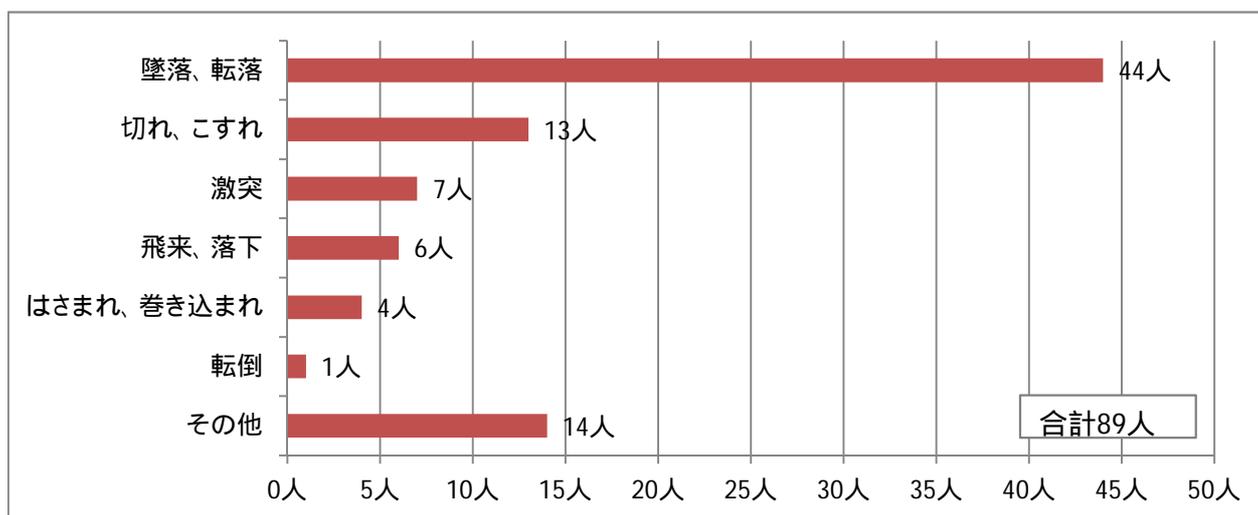


- 1 木造家屋建築工事は、新築工事、改修・改築工事、解体工事に大別されます。
- 2 工事別では、新築工事での労働災害が最も多く、全体の半数近く(44.5%)を占めています。次いで、改修・改築工事(全体の25.5%)、解体工事(同14.5%)となっています。復興の本格化・住宅工事の着工増に伴い、今後、特に、新築工事で災害が増加することが懸念されます。

「改修・改築工事」には、家屋の増改築のほか、屋根葺き替え、補修・塗装等の工事も含まれます。また、「その他の災害」には、現場への移動中の交通事故、自社敷地内での災害等で工事種別の区分ができないものが該当します。

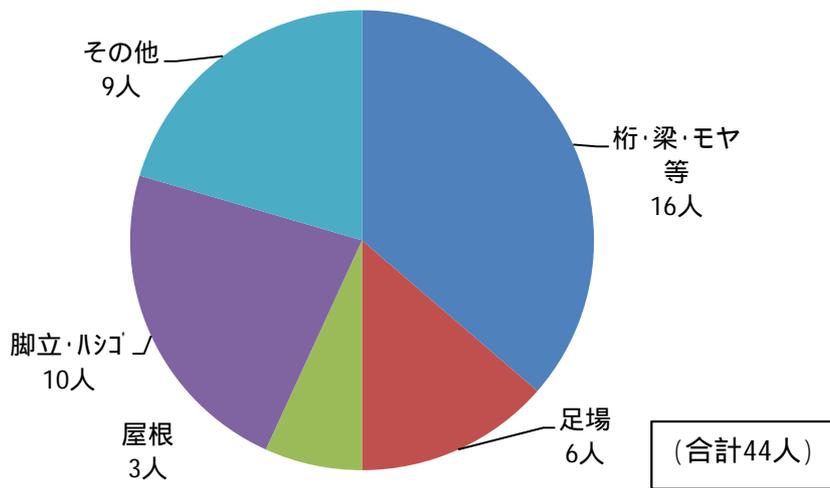
2、工事ごとの災害発生状況

(1)新築工事



- 1 新築工事では、特に墜落、転落災害が多発している状況が顕著です(全体の49.4%で全体の約半数)。墜落、転落の起因物は、裏面の円グラフを参照してください。
- 2 切れ、こすれ災害13人のうち11人は木材加工用丸のこ盤によるものです。木材加工用丸のこ盤による災害のうち、3人が切断作業中の歯の反ばつによる災害、2人が歯に挟まったゴミ等を取り除こうと手を入れた際の災害です。
- 3 このほか、荷卸し作業中に転倒したユニック車の下敷きになった、整地中のバックホウに衝突した等、建設重機等による災害も発生しています。

新築工事の墜落・転落災害の状況



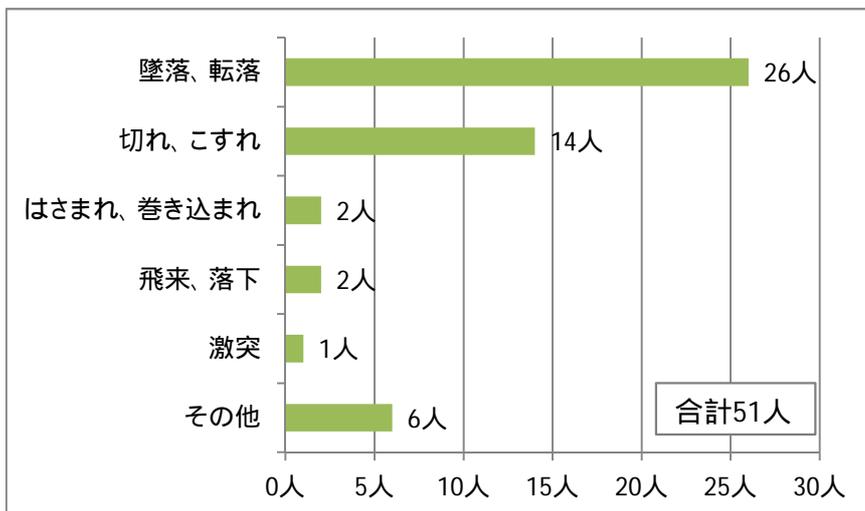
新築工事の墜落、転落災害では、建方作業中に桁・梁の上から墜落しているケースが最も多い(15人)。中でも、資材を担いで移動している際に墜落しているものが多く、特に注意が必要。

足場からの墜落(6人)では、足を踏み外し、作業床と駆体の間に墜落しているものが多い(4人)。

墜落、転落災害では、いずれのケースでも、安全帯の着用が行われていなかった。

脚立、ハシゴ、開口部からの墜落も増加しており、注意が必要。

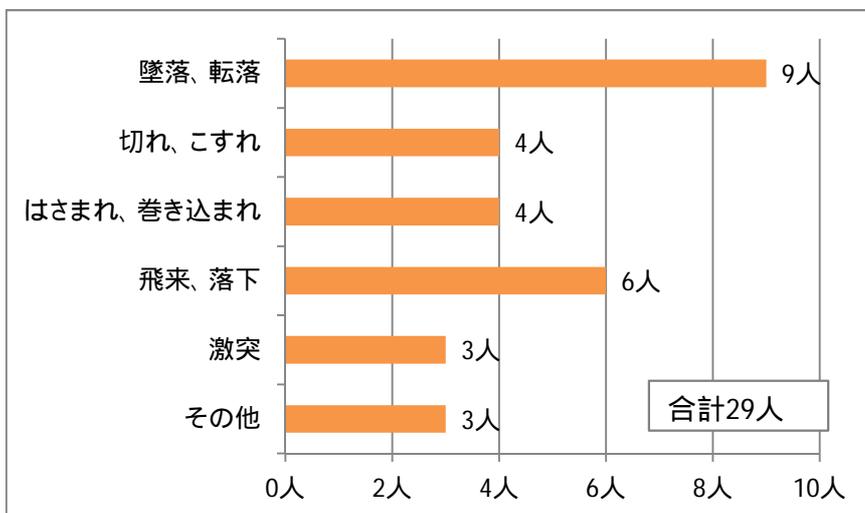
(2) 改修・改築工事の災害発生状況



1 改修・改築工事では、墜落、転落災害が多発している状況が顕著です(全体の51.0%)。墜落、転落の状況としては、屋根からの墜落が最も多く(11人)、特に屋根瓦の葺替・補修作業中の災害が多発しています。また、屋根以外の墜落、転落災害としては、移動ハシゴ・脚立(3人)、足場(3人)、桁・開口(それぞれ1人)となっています。

2 切れ、こすれ災害では、14人中5人が木材加工用丸のこ盤によるものです。

(3) 解体工事の災害発生状況



1 解体工事でも、墜落、転落災害の発生件数が最も多い状況です。墜落、転落の状況としては、屋根からの墜落が最も多く(5人)、他には、駆体・梁材(2人)、トラック・足場作業床からの墜落(それぞれ1人)となっています。

2 はさまれ、巻き込まれ災害や激突災害では、バックホウ(グラブ)との接触・衝突災害が4件発生しています。

また、切れ、こすれ災害として、サンダー・グラインダーによるものが3件発生しています。